

「靈界で觀た宇宙九卷 精神産業と産業精神」より

(昭和四十一年 九月發行)

「生命の道」

生命とは生・きるを命ずと書き示してあるが、一体誰が命ずるのか。人類萬物の生命の祖おやは大生命であり、宇宙森羅萬象ばんざう悉くを司り統率し給う宇宙意思の命ずるところに従って、大生命の路線上に宇宙産業の産物として生み出されたのが、人類はじめ萬物であることを知らねばならない。

己の姿が鏡に映るように、人が己に似た子を世に生まれしめるように、人類は宇宙をうつし、宇宙の縮図である體を与えられて生活しているのである。人の體は宇宙の真理に出来ているのである。人の生まれるにしても、たとえ肉體の父母があるとはいえ、人の力だけで生命を造り生み出すことは出来ない。宇宙造化の力が母胎内に経綸作用を起こして、胎児が發育する力を与えられるのである。母體を離れて地上に生み落とされた後は、直接に大生命・大精神に結ばれて生命の道を守るのである。天地の厚德に守られて生まれた後は、大空たいくうの育てによって發育し、體的教育に先行して天地宇宙の教を精神教化することによって、次第にその人の生命線は強く大生命に繋がれて正道を歩むようになるのである。